



かく・やんちゆん●1959年東京都生まれ。1983年法政大学経済学部卒業。1988年立教大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程を単位取得退学し、立教大学経済学部助手。専任講師、助教授を経て、2001年教授。同大学教務部長、経済学部長兼研究科委員長を歴任し、2018年より現職。専攻分野は開発経済学、アジア経済、平和経済学。



私の改革論

荒波に挑むトップ

No.35

リベラルアーツを柱に 人生の構想力を育成

世界の人人々と共に生きていくにはまず、人として自分はどう生きていくのかをしっかりと考える必要があります。

私はリベラルアーツ教育を、「ものの方、考え方、人生の生き方を問う教育」だと捉えています。人生100年時代と言われる今日、大学卒業後の長い人生を充実させるには、人生の構想力が欠かせません。その構想力を育むのがリベラルアーツ教育なのです。

本学では、2016年に学士課程の学びの体系を大幅に改革し、「RIKKYO Learning Style」(RLS)を導入しました。これは、学生が自らのビジョンに基づき自由に学びを組み合わせ、自分らしい成長をめざすしくみです。単純に卒業に必要な単位を履修し、積み上げていくのではなく、学びを通して「なりたい自分」をつくりあげてほしい——そのため4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3つのタームに分け、学修を支援しています。科目についても、専門科目や正課外活動など、

共に生きる社会の発展に貢献し アジアで際立つ大学へ

人生の構想力を持ち、英語、AIを使いこなすグローバルリーダーを育てる

時代の半歩先を見据え 求められる人材を育成

人、モノ、カネが国境を越えて瞬時に移動するグローバル化のシヨンは、世の中のスピード感を大きく変えました。昔は「十年一昔」と言われていましたが、今は「二年一昔」です。大学は4年の

歳月をかけて学生を育てますが、「今」を追っているのは、学生が卒業する頃には時代遅れになってしまっています。そのため人材育成では、時代の半歩先を見据えておく必要があるでしょう。

現在の世相は、現実的な利益を追求する実利主義が色濃いように思えます。こうした考えが強くな

りすぎると、社会をあらぬ方向へと導く危険があります。そうならぬようにするため、これからは倫理観や道徳観を備え、世界の人人々と共存共栄を図りながら生きていく人間が求められるのではないのでしょうか。この考えは、近代化が進む中で、今と同様に実利主義がまん延していた明治初期に、「真

10のカテゴリに分類して学生に提示し、自分らしい学びを組み立てやすい環境を整えました。

あらゆる学びの記録は、eポートフォリオ「立教時間」に蓄積されます。これにより自分の成長を振り返り、「なりたい自分」への到達度を確認することもできるようになっています。

RLSは本年度で完成年度を迎えます。自らが描く将来のビジョンを基に学ぶことで、芯が通り、アクティブに活動する学生が増えたと実感しています。

国内初のAIに特化した 大学院(研究科)を新設

世界を相手にこれからの社会を生きていくには、英語とAIをツールとして使いこなす能力が欠かせません。

英語については2020年度から、全学部の1年次にディベートを導入します。現在は、1クラス8人で1年間ディスカッションを実施しています。しかし、自分の考えを十分に理解してもらうには、相手の考えを受け入れたうえで、自分の考えが伝わるように話す必要があります。ディスカッションは半年で終え、残りの半年をディベートに変更し、初年次の

英語教育をさらに進化させます。

AIについては、国内初となる人工知能(AI)に特化した研究科を2020年4月に開設します。文系学部を主体とする本学が、なぜAIに取り組むのか——その意義は3つあります。1つ目は、人文社会系でのAIの活用。本学が先鞭をつけること。2つ目は、AI活用における倫理的・法的・社会的な課題の解決。本学の教育・研究の強みを生かすこと。3つ目は、本学の企業とのつながりを生かして産学連携でAI人材の育成に取り組むことです。

知識の創造では、データの活用がキーになります。研究だけでなく、AIをこれからの教養科目として全ての学部生が学べるような体制を今後整えていく予定です。

求める入学者像を基に 入試制度を改革

2021年度入試から始まる入試改革では、このような本学の教育を受けた人、本学の教育を受ける準備を十分に積んできた人に入学してもらいたいと考え、制度の見直しを行っています。

まず、個別学部日程を廃止し、全学部日程に統一。全学部日程を現行の1試験日から5試験日に拡

大します。これは、本学の学びに共感し、どうしても本学で学びたいと思う学生に広く門戸を開きたいとの考えからです。

次に、本学独自の英語試験を廃止し、民間試験または大学入学共通テストで英語多技能の力を判定するように変更します。ディベートの導入など、入学後の英語教育をさらに進化させるために、高校までの学習で多技能の力を十分に身に付けてきてもらいたいと考えています。

建設的な議論を通して 全学合意を形成

本学では、大学全体で意思決定する際には全学合意を基本としています。入試改革の議論も同様

です。原案に対してはそれぞれの立場からさまざまな意見が出されます。しかし、全体としてどうしたらもっとよくなるのか、どうしたら実現できるのかという視点で議論するため、最終的には全学合意が形成されます。

これは背景に、大学全体を貫く「For The RIKKYO」の精神があるからでしょう。常に全体のことを考えて共に生きるための道を探る組織風土が、学部の壁を越えた全学での改革推進を可能にしているのです。

「社会のためにわれわれは何ができるのか？」このことを第一に考える姿勢が、本学らしさです。この姿勢を大事にして、これからも共に生きる社会の発展に貢献していきます。



*1 立教ファーストタームプログラム、専門科目、多彩な学び、言語系科目、グローバル教養副専攻、スポーツ実習、正課外活動、海外プログラム、インターンシッププログラム、i-Campus

*2,3 文学部を除く